府中市美術館 運営協議会 答申書

府中市美術館の利用拡大について　～事業・施設のあり方～

令和６年１１月

府中市美術館運営協議会

【はじめに】

府中市美術館運営協議会は、美術館の運営や事業に携わってきた者、美術史の研究者、美術作家、府中市の学校教育・家庭教育・地域活動の代表、そして市民からの公募委員という、計１２名によって構成される。各委員にはそれぞれの経験や知見を活かしつつ、美術館に対する広い視野と、府中市の地域特性に寄り添った視点の双方から、府中市美術館の運営について提言することが期待されている。

本協議会は、令和４（２０２２）年１２月から令和６（２０２４）年１１月までの２年間にわたって、諮問事項「府中市美術館の利用拡大」について、計４回の会議を重ねてきた。この諮問事項を、単に入館者増を図るという数値的観点ではなく、より一層府中市美術館に親しんでもらうという質的観点で捉え、事業の充実、施設の整備、広報の拡充などについて議論を深めた。

【これまでの府中市美術館】

府中市美術館の活動はこれまで、高い水準を維持しながら一層の拡充を遂げてきた。

作品収集事業では、「府中市及び多摩地域ゆかりの美術」「国内外の近代以降の洋画」「若手作家の作品」という収集方針に従い、着実にコレクションを形成してきた。とりわけ、平成３０（２０１８）年３月に、新規作品取得のための府中市美術品購入基金が設けられたことは、高く評価できる。

展示事業では、人気の高い作家・作品を紹介する企画（令和４年度「アーツ・アンド・クラフツとデザイン」）や、子どもたちを対象とした普及的内容の企画（夏休み時期の「ぱれたん」展）など、市民ニーズを反映した展覧会と、新たな視点から美術史を読み直す企画（令和４年度「ただいまやさしき明治」「江戸絵画お絵かき教室」）や、地域の作家を掘り起こす企画（令和５年度「発掘・植竹邦良」）など、この美術館の個性を生かした展覧会とを、バランスよく実施しており、専門家や研究者からの評価も高い。簡潔で読みやすい解説パネル、鑑賞者に親しみを持たせる演出、企画展のなかで収蔵作品を有効に活用した出品構成など、展示上の工夫についても評価すべき点が多い。

教育普及事業では、「小中学校美術鑑賞教室」や「府中っ子学びのパスポート」といった子どもたちを対象とした取り組みをはじめ、公開制作、アートスタジオ、学校など他機関と連携した事業などを、バリエーション豊かに展開してきた。

さらに、カフェ、ショップ、市民ギャラリーといった付帯設備についても充実しており、市民をはじめとする多くの方々が利用している。こうした施設が府中市にあることを、さらに多くの人々に知ってもらい、日常生活の中で、より活用してもらうことが重要である。

一方、施設管理の面では、建築基準法改正に伴う天井改修工事（平成３０年度）や、設備老朽化に伴う各種修繕などを随時実施してきた。

【これからの府中市美術館】

このように府中市美術館は、現状でも充実した事業を展開している。そのうえで、近年の社会状況や府中市の地域特性を踏まえ、いくつかの提言を行う。

多様な利用者への対応

美術館という鑑賞環境は、不特定多数が時間を選ばずひとつの空間に集まるものであり、通常は大人の健常者を対象に展示が設計されている。しかしそれは、年少者やハンディキャップのある方には不便さを感じさせる場合があり、また、作品を前にした自由な対話も忌避されがちだ。インバウンドの増加傾向も踏まえ、今後はこれらの多様な要望を持つ利用者に対して、その属性やニーズにあわせた鑑賞環境をさらに整えることが求められていく。例えば、子どもだけが鑑賞可能な曜日・時間帯を設けるといった工夫も、今後は考えられるのではないだろうか。

またこれまで美術館は、「美術館に来る人」を中心に事業を展開してきた側面がある。しかし、高齢者や遠隔地居住者、ハンディキャップのある方など、美術館に来る上で何らかの負担を持つ人々も存在する。さらには、美術や美術館に興味が無い人々、また、不登校児童生徒など通常の教育活動に参加しにくい人々もいる。こうした「美術館に潜在的に関心を持つ可能性のある人」へのアプローチが、今後の美術館利用の拡大に繋がり、かつ、美術館の社会的存在価値を高めていくことになるだろう。

オンラインの活用

ウェブサイトやＳＮＳなどのオンライン技術は、これまでも広報メディアとして活用されてきた。しかしコロナ禍で外出が制限されるなか、動画による作品解説、双方向通信による講座、静止画や動画による展示状況の公開など、オンラインを活用したさまざまな美術館事業が実践された。また学校教育の場ではタブレットパソコンが導入され、デジタル教材は必須のものとなっている。

オンラインを活用しさまざまな事業を展開することは、これからの美術館活動に不可欠な要素とな、先に挙げた「潜在的に関心を持つ可能性のある人」への働きかけにもなる。

また、近年、館内でのスマートフォンの使用による、出品リスト、作品解説などの提供をしている美術館が増えているほか、オンライン上での情報提供を前提とした作品を制作する現代アート作家もいることから、将来の導入を見据えた、館内の Wi-Fi 環境の整備は検討すべきであろう。

地域への働きかけ

市の施設である府中市美術館では、地元市民の支援や利用は欠かせない要素である。しかし開館２４年を迎えた今なお、美術館の存在を意識していない市民も多い。こうした人々に対しては、今後も引き続き美術館の事業をアピールし、参加を促していかなければならない。

そのためには、口コミ、回覧板、掲示板など生活圏に密着したメディアによる広報は大きな効果をもたらすと思われる。また、地域のイベントや施設、学校などに赴いて事業を展開するアウトリーチ活動も、美術館への認知度を高めるとともに、新たな利用者層を開拓する面で、大きな効果をもたらすであろう。

主体的で能動的な利用

美術館利用というと、展覧会や教育普及事業など施設側が提供するプログラムに参加するという受動的なものが一般的である。しかしこれからは、より能動的な利用形態も考えていく必要がある。

府中市美術館でもボランティアを導入しているが、コロナ禍でその活動は縮小を余儀なくされた。状況が落ち着いた現在では、ボランティア活動の活性化が可能だし、その際には参加者が主体的に参画でき充足感を得られる事業形態を目指すことが望ましい。

公開制作は、現役の美術作家が美術館で作品を制作しそれを公開する、府中市美術館ならではの事業である。鑑賞者にとっては新鮮な体験であるが、同時に作家にとっても、来館者と接するという刺激的な機会である。このような、作家がより能動的に関わるプログラムを増やしていくことも、美術館の事業を拡充し、さまざまな意味で存在意義を高めることに繋がっていく。

将来に向けた取り組み

府中市美術館が一層の発展を遂げるためには、将来を見据えた取り組みを行っていく必要がある。

作品収集では、１００年後にも残り、市民の誇りとなるような充実したコレクションを形成する必要があり、安定した作品取得のためには美術品購入基金の維持が不可欠である。展示や教育普及では地域の未来を育むといった視点に立ち、そのための事業を長期的かつ継続的に展開することが求められる。また施設設備については、老朽化への対応と新たな機能拡充のために大規模な改修を行う必要がある。そして改修に伴う長期休館中にも、美術館活動が途切れることがないよう事業を展開していかなければならない。

令和６年１１月

府中市美術館運営協議会

会　長	橋　本　善　八
副会長	隠　岐　由紀子
委　員	芹　澤　敏　光
委　員	髙　橋　伸　嘉
委　員	岡　村　幸　宣
委　員	真　住　貴　子
委　員	水　橋　佳也子
委　員	加賀美　敦　子
委　員	金　田　実　生
委　員	吉　田　裕　子
委　員	瑞慶覧　香　織
委　員	森　下　英　美

参考資料

１　企画展の実施状況

年度		展覧会名	開催日数（日）	観覧者数（人）
Ｒ３	1	与謝蕪村「ぎこちない」を芸術にした画家	21	7,085
	2	映えるNIPPON　江戸～昭和　名所を描く	36	6,079
	3	いっしょに遊ぼう！ぱれたんとむら田	36	8,459
	4	開館20周年記念　動物の絵　日本とヨーロッパ ふしぎ・かわいい・へそまがり	62	38,320
	5	池内晶子　あるいは、地のちからをあつめて	56	9,260
	6	ふつうの系譜　「奇想」があるなら「ふつう」もあります一京の絵画と敦賀コレクション	17	2,636
Ｒ４	1	ふつうの系譜　「奇想」があるなら「ふつう」もあります一京の絵画と敦賀コレクション	34	7,527
	2	孤高の高野光正コレクションが語る　ただいま やさしき明治	43	11,255
	3	夏休みチャレンジ　アートのたねをみつけよう！	44	8,588
	4	アーツ・アンド・クラフツとデザイン　ウィリアム・モリスからフランク・ロイド・ライトまで	63	32,302
	5	諏訪敦「眼窩裏の火事」	57	17,833
	6	春の江戸絵画まつり　江戸絵画お絵かき教室	18	3,622
Ｒ５	1	春の江戸絵画まつり　江戸絵画お絵かき教室	33	10,567
	2	発掘・植竹邦良 ニッポンの戦後を映す夢想空間	44	6,167
	3	ぱれたんサマー むら田もいっしょ！	38	10,381
	4	インド細密画	62	19,448
	5	白井美穂　森の空き地	57	7,609
	6	春の江戸絵画まつり　　ほとけの国の美術	20	6,127

２　公開制作の実施状況

年度	№.	作家・テーマ	回数	日数
Ｒ３	公開制作81	椛田ちひろ　縺れもつ、解ほどけ、すべては進みながら起こる	10	58
	公開制作82	淺井裕介　種を食べた美術館	10	100
	公開制作83	岩井優　　ハウツー・クリーンアップ・ザ・ミュージアム	11	56
Ｒ４	公開制作84	幸田千依　空と競馬場	10	64
	公開制作85	スポークンワーズプロジェクトによるスポークンワーズプロジェクト	8	107

年度	№.	作家・テーマ	回数	日数
Ｒ５	公開制作86	馬塲稔郎　animalier ～白いキリンの夢～	10	65
	公開制作87	今井俊介	12	100
	公開制作88	髙田安規子・政子　くり返すカタチ	10	57

３　アートスタジオの実施状況

年度	開催数（回）	参加人数（人）
Ｒ３	8	110
Ｒ４	21	341
Ｒ５	22	426

４　美術鑑賞教室の実施状況

年度	開催数（回）	参加人数（人）
Ｒ３	31	3,373
Ｒ４	33	4,034
Ｒ５	33	3,918

５　市民ギャラリーの利用状況

年度	展覧会数（本）	入場者数（人）
Ｒ３	9	11,887
Ｒ４	24	21,408
Ｒ５	26	19,878

６　館の工事及び修繕の状況（支出額50万円以上のもの）

年度	修繕・工事	件名
Ｒ３	委託	劣化診断調査委託
	修繕	企画展示室ガラス展示ケースギアボックス等修理
	修繕	水冷スクリューチリングユニット整備用部品交換修理
	修繕	真空給水ポンプ部品交換
	修繕	エレベーター（油圧式）機械室エアコン交換
	修繕	自家発電機室内発電機始動用蓄電池交換
Ｒ４	委託	府中市美術館 改修内容検討調査委託
	工事	空調設備（中央管制装置空調コントローラー）改修工事
	工事	電気設備改修工事（非常照明用蓄電池更新修繕）
	修繕	自動ドア修繕

年度	修繕・工事	件名
Ｒ５	修繕	喫茶室ウッドデッキ修繕
	修繕	館厨房機器更新修繕
	修繕	雨水ろ過設備修繕
	修繕	中央監視装置リモートユニット交換修理